

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(サウジアラビア: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/SaudiArabia.html>)

マイライブラリー:0247

2012.11.12

前田 高行

(ニュース解説)内務省はナイフ家のものか？サウジアラビアで大臣ポスト世襲化の動き表面化

1. わずか4カ月足らずで交替した内務大臣



サウジアラビアの国内治安の要である内務大臣がアハマドから副大臣のムハンマドに交替した(写真)¹。前任者のアハマドは今年7月にナイフ皇太子の死去に伴い副大臣から昇格したばかりであった²。アハマドはナイフの実弟でありハッサ・ステイリを母親とする有名なステイリ・セブンの末子である。ステイリ・セブンは長男のファハド(2005年死去)が前国王、次男のスルタン(2011年死去)は国防大臣であり、37年間にわたり内務大臣をつとめ実兄スルタンの死後皇太子に即位していた4男のナイフも今年7月に死去した。アハマドのすぐ上の兄サルマンは昨年スルタン死後国防大臣に就任、今年7月のナイフ死去に伴い皇太子に即位している³。この時、アハマドは内務省副大臣から大臣に昇格したのである。そして今回後任の内務大臣に就任したムハンマドは故ナイフの息子である。つまり内務大臣のポストが叔父から甥に交替したことになる。

*「サウド家王族の閣僚・政府要人」図参照。 <http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-1.pdf>

アハマドもムハンマドも早くから内務省に入りナイフを支えてきた。その意味ではナイフからアハマドへの交替、そして今回のアハマドからムハンマドへの交替は序列としては極めて自然である。しかしナイフの死去に伴いアハマドが昇格したことは当然としても、今回わずか4カ月足らずムハンマドに交替したことは余りにも唐突であると言えよう。アハマドの辞任理由は、本人の申し出による、とのみ報道されており様々な憶測が飛び交っている。

ムハンマド新内相は1959年生まれの53歳。1999年に父親が大臣を務める内務省の Assistant Minister になり父親の右腕として国内の治安対策特にアルカイダ組織の摘発に辣腕を發揮した。そのため組織から命を狙われるようになり、実際2009年8月には外国療養中の父親に代わり自宅で一般市民からラマダンの挨拶を受けていた時、挨拶客にまぎれて侵入した自爆テロ犯に襲われた。しかし彼は運良く危機一髪で難を逃れ軽傷で済んでいる⁴。

2. 大臣ポストの世襲化と新たな家系創設の動き

今回の内務大臣交替には二つの大きな意味がある。一つは内務省という組織がナイフ家の世襲であることを内外に示したことである。そして二つ目はサウド家王族が握る有力大臣ポストが第二世代から第三世代へと引き継がれたことである。ムハンマドの父親ナイフは既にかいたとおり 1975 年に内務大臣に就任して以来終身その地位を保持した。内務省は彼が作り上げたと言っても過言ではない。彼は内務省の中で絶大な権力基盤を築き上げ、内務省に関してはたとえ国王と言えども口をはさませなかったのである。そしてかれは内務省そのものを息子に受け継がせる腹積もりであった。ナイフにとって実弟のアハマド副大臣はあくまで息子のムハンマドが一人立ちするまでの後見役にすぎなかったと思われる。政府組織を世襲化するなどということは民主国家では考えられないことであるが、絶対君主制でしかも初代国王の息子たちが国王、皇太子、主要大臣ポストを独占しているサウジアラビアなればこそである。(内務省と同じようなことは故スルタンが支配した国防省についても言えることであるが、これについては稿を改めて論じる。)

世代交代を求める声はかなり以前から内外に溢れていた⁵。第二世代の指導者たちもその必要性は認識しサウジアラビア王国或いはサウド家安定の鍵となるポストについて順次第三世代の王子を登用し、彼らを閣僚級として処遇している。しかし最近まで第三世代の閣僚はサウド外相とアブドルアジズ国務相の 2 名にとどまっていた。ファイサル第三代国王の子息であるサウド外相は既に 37 年前の 1975 年に大臣に就任しており実績は申し分なく第二世代の王子としては別格の存在である。もう一人のアブドルアジズ国務相はファハド前国王が溺愛した末子であり生前ファハドが強引に国務大臣に任命したものである。そのためファハド死後の同国務相は今や名ばかりの存在となっている。

今回のムハンマドの内相就任は世代交代が叫ばれて以来実質的に初めての第三世代の大臣登用と言える。今後このようなケースが(例えば国防相ポストなど)増えてくるであろう。そのためサウド家の中でもアブダッラー現国王家、スルタン(元国防相)家、サルマン(現国防相)家、ファイサル(第三代国王)家などの有力家系が大臣ポストの世襲をめぐる水面下で激しい暗闘を繰り広げることは間違いなさそうである。

砂漠の民ベドウィンは名前の最後に父親の名前と一族の名前を付ける。サウド家の第三世代の場合は更に祖父で建国の父 Abdulaziz の名前も付ける。従ってムハンマド新内相の正式な呼称は H.R.H. Muhammad bin Naif bin Abdulaziz al-Saud となる。末尾にサウド家(Al-Saud)の名を冠することは一族の精神的結束に有効であろう。しかし第三世代の王子の人数は 300 人近くに達し、彼らの大半は 50 代前後である。彼らが父親の名を家名とする新たな命名により一族の存在を他の王族と区別しようと考えても不思議ではない。実際サウド外相の呼び名は Saud al-Faisal al-Saud (「サウド家の中のファイサル家のサウド」の意)である。新内相もいずれ Muhammad Al-Naif al-Saud と名乗る日が来るかもしれない。その時はアブダッラー一家もスルタン家も追従するに違いない。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ Arab News on 2012/11/6, 'King appoints Prince Muhammad as new interior minister'

² Arab News on 2012/6/19, 'Prince Salman named crown prince, deputy premier'

³ 拙稿「タナボタで皇太子になったサルマン王子」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0232SaudiCrownPrinceSalman.pdf>

⁴ Arab News on 2009/8/28, 'Prince Muhammad escapes assasination attempt'

⁵ 拙稿「振り出しに戻ったサウド家後継者問題」他

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0207SalmanDefenceMinister.pdf>